

3・4 調査，研究報告抄録

熊本県におけるイノシシ，シカ及びブタの E 型肝炎保有状況等調査

原田誠也，西村浩一，田中智之^{*1}，石井孝司^{*2}，李天成^{*2}

厚生労働科学研究費補助金(食品の安心・安全確保推進研究事業)「食品中の病原ウイルスのリスク管理に関する研究」研究分担報告書

イノシシ，シカ及びブタの E 型肝炎ウイルス(HEV)保有状況及びブタ血清中の IgG 抗体保有率を調査した。これまでの調査で，HEV 遺伝子はシカからは全く検出されなかったが，イノシシの 9.2%から検出された。一方，ブタでは血清から 0.09%であったが，廃棄肝臓の 6%から検出された。また，ブタ血清の 72%が HEV に対する IgG 抗体陽性であり，養豚場間で抗体保有率に大きな差がみられたことから，ブタへの HEV 感染は飼育環境等に影響されていることが推察された。

^{*1}堺市衛生研究所，^{*2}国立感染症研究所

熊本県におけるヒトライノウイルス(HRV)の分子疫学

清田直子，西村浩一^{*1}，原田誠也，野田雅博^{*2}，木村博一^{*2}

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
「重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイランス・病態解明及び制御に関する研究」
総括・分担研究報告書

熊本県における急性呼吸器感染症(ARIs)ウイルスの実態を明らかにするため，2009年4月～2011年12月の間に ARIs 患者から採取された咽頭ぬぐい液および鼻腔ぬぐい液 239 検体のウイルス検索を実施した。その結果，100 検体(41.8%)から ARIs ウイルスが検出された。内訳は，ヒトライノウイルス(HRV)が 38 件，Respiratory syncytial ウイルスが 26 件，パラインフルエンザウイルスが 12 件，ヒトメタニューモウイルスが 7 件，ヒトコロナウイルスが 3 件，ボカウイルスが 3 件，エンテロウイルスが 22 件，アデノウイルスが 3 件検出された。また，検出された HRV について系統樹解析を行ったところ，主に species A および C が検出され，それらは多くの type に分類されたことから，様々な type の HRV が流行していた可能性が考えられた。

^{*1}熊本県健康福祉部薬務衛生課，^{*2}国立感染症研究所

九州地区における食品由来感染症調査における分子疫学的手法に関する研究

-IS-printing System の精度管理-

江藤良樹^{*1}，市原祥子^{*1}，堀川和美^{*1}，麻生嶋七美^{*2}，寺西泰司^{*3}，西桂子^{*4}，
右田雄二^{*5}，江原裕子^{*6}，緒方喜久代^{*7}，徳岡英亮，杉谷和加奈^{*8}，吉野修司^{*9}，
田まどか^{*10}，久高潤^{*11}

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
「食品由来感染症調査における分子疫学手法に関する研究」

総括・分担研究報告書

IS-printing system(ISPS)の精度管理を，九州ブロック 12 施設を対象に実施した。今回は，判定困難な「明瞭なエクストラバンド」をもつ 7 株の DNA を使用した。その結果，精度管理に使用した 7 株の ISPS 型別は，12 施設のうち 8 施設が期待される結果と異なっていた。原因は，明瞭なエクストラバンドの誤判定，PCR エラー，薄いエクストラバンドの誤判定，アガロースゲル電気泳動におけるバンドの出現位置のズレ，及び単純入力ミスの 5 項目であった。

^{*1}福岡県保健環境研究所，^{*2}福岡市保健環境研究所，^{*3}北九州市環境科学研究所，^{*4}佐賀県衛生薬業センター，^{*5}長崎県環境保健研究センター，^{*6}長崎市保健環境試験所，^{*7}大分県衛生環境研究センター，^{*8}熊本市環境総合研究所，^{*9}宮崎県衛生環境研究所，^{*10}鹿

児島県環境保健センター，^{*11} 沖縄県衛生環境研究所

熊本県における放射能調査

豊永悟史，上野一憲，北岡宏道

文部科学省：第53回環境放射能調査研究成果論文抄録集（平成22年度）

文部科学省委託として平成22年度に実施した環境放射能水準調査結果について報告した。降水，大気浮遊じん，降下物，降水（蛇口水），土壌，精米，茶，牛乳，野菜（大根及びホウレン草）及び空間放射線量率について調査した結果，平成23年3月に採取した降下物において，¹³¹Iが平成元年の調査開始以来初めて検出された。その他の環境試料中の放射能及び空間線量率については，ともに前年度と同程度のレベル内にあり，特に異常値は認められなかった。